

島根県沿岸からの記録種の説明

Eubrachyura 真短尾区

Heterotremata 異孔短尾亜区

Calappoidea カラッパ上科

Matutidae キンセンガニ科

Matuta victor (Fabricius, 1781) キンセンガニ

(図 7)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 砂底, 2016年7月17日, 1オス (cl 38.2 mm, cw 40.5 mm, 側棘を除く), 1メス (cl 26.4 mm, cw 27.4 mm, 側棘を除く).

分布. イスラエル (地中海沿岸), 紅海, アラビア海, 東アフリカ, マダガスカル, コモロ諸島, ベンガル湾, アンダマン海, マレーシア, インドネシア, 中国, 韓国, 日本, ニューカレドニア, オーストラリア, ニューヘブリディーズ諸島 (バヌアツ) (酒井, 1976, *M. lunaris* (Forskål, 1775)として報告; Galil and Mendelson, 2013). 日本では, 東京湾・新潟県から鹿児島県, 琉球列島 (八重山諸島まで), 小笠原諸島 (三宅, 1983; 伊藤・本間, 2001; *M. lunaris* (Forskål, 1775)として報告; 三浦, 2008, *Ashtoret lunaris* として報告).

生息場所. 砂浜, 砂質干潟; 潮間帯から水深 15 m (三宅, 1983, *M. lunaris* (Forskål, 1775)として報告; 三浦, 2008, *Ashtoret lunaris* として報告).

備考. キンセンガニの学名には, *Matuta lunaris* (Forskål, 1775)または *Ashtoret lunaris* があてられていた (例えば, 酒井, 1976; 三宅, 1983). Galil and Clark (1994)は, *Cancer lunaris* Forskål, 1775 と *Cancer victor* Fabricius, 1781 の分類の混乱解決を図り, 「キンセンガニ」に該当する学名を *Matuta victor* とした. 一方, *Cancer lunaris* は「コモンガニ」に該当し, 現在の学名は *Ashtoret lunaris* (Forskål, 1775)として認識されている.

本種は甲幅が 70 mm に達するカニ類で, 通常砂底に潜っている (三浦, 2008). 肉食性で, 大型個体では貝類やヤドカリ類などを捕食することに加え, 海岸に漂着するイカや魚, クラゲなどに群がり消費する死肉分解者の役割もあることが確認されている (Perez and Bellwood, 1988; 小林, 2013),

調査標本の採集地である島根県松江市島根町加賀桂島の砂浜では, サンカクヒシガニ *Aulacolambrus diacanthus* (De Haan, 1837)が同所的に見つかっている (本報). また, ハルマンスナモグリ *Neotrypaea harmandi* (Bouvier, 1901)の巣穴 (大澤ほか, 2014; 図 6E)やタマシキゴカイ *Arenicola brasiliensis* Nonato, 1958 のものと思われる糞塊も多数確認できる.



図 7. *Matuta victor* (Fabricius, 1781) キンセンガニ, 島根県松江市島根町加賀桂島, オス (cl 38.2 mm, cw 40.5 mm, 側棘を除く).

Leucosioidea コブシガニ上科

Leucosiidae コブシガニ科

Ebaliinae エバリア亜科

***Pyrhila pisum* (De Haan, 1841)** マメコブシガニ

(図 8)

調査標本. 島根県. 松江市大橋川, 朝酌町矢田 (stn O-2), 水深 2 m, 2005 年 12 月 10 日, 1 オス (cl 8.1 mm, cw 7.6 mm). 松江市大橋川, 朝酌町矢田 (stn O-2), 水深 4 m, 2005 年 12 月 10 日, 1 オス (cl 13.8 mm, cw 13.1 mm). 松江市大橋川, 福富町 (stn O-1.5), 水深 5 m, 2006 年 3 月 10 日, 1 メス (cl 15.4 mm, cw 14.3 mm). 松江市大橋川, 2013 年 12 月, 1 メス (cl, cw 未測定).

分布. 日本, 韓国, 中国, 台湾 (Galil, 2009). 日本では, 青森県陸奥湾, 山形県・宮城県仙台湾から九州 (鹿児島県)・奄美大島 (本尾, 2003; 三浦, 2008; *Philyra pisum* として報告; 鈴木, 2012).

生息場所. 内湾, 砂泥・砂質干潟; 潮間帯, 干潟の濡すじ (鈴木, 2012).

備考. Galil (2009)は, マメコブシガニ属 *Philyra* Leach, 1817 を改訂するとともに, 7 新属を創設した. 本種は, それらの新属のうちの *Pyrhila* Galil, 2009 に移された. なお, その時点において暫定的に *Philyra* に残されている 27 種があり, これらの所属について, さらなる検討が必要であるとされていた (Galil, 2009). その後, それら 27 種のうちの *Philyra fuliginosa* Targioni Tozzetti, 1877 (= *P. olivacea* Rathbun, 1909)は新属 *Ovilyra* Ng, 2021 に, *P. alcocki* Kemp, 1915 は新属 *Alcolyra* Trivedi, Mitra and Ng, 2022 に, *P. sexangula* Alcock, 1896, *P. taekoa* (Takeda, 1972), *P. nishihirai* (Takeda and Nakasone, 1991)は新属 *Bellayra* Trivedi, Naderloo, Viswanathan, and Mitra, 2022 にそれぞれ移されている (Ng, 2021; Trivedi et al., 2022a, b). マメコブシガニが属する *Pyrhila* には和名新称が必要であると考えられるが, 本報の目的を超えるため, その提唱を避ける.

マメコブシガニは, 日本の太平洋岸における潮の引いた干潟では, 濡すじなどの海水の残っている場所に多く見られる (三浦, 2008). マメコブシガニは, 「改訂 しまねレッドデータブック 2014 動物編 ~島根県の絶滅のおそれのある野生動物~」では, 「準絶滅危惧 (NT)」のランク種に含められている. おもに宍道湖東部から中海にかけて, 生息が確認されているが, 近年の生息条件の悪化により, 生息数が減少傾向にある (桑原, 2014d).



図 8. *Pyrhila pisum* (De Haan, 1841) マメコブシガニ, 松江市大橋川, メス (cl, cw 未測定).

Parthenopoidea ヒシガニ上科**Parthenopidae** ヒシガニ科***Aulacolambrus diacanthus* (De Haan, 1837)** サンカクヒシガニ

(図 9)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 砂底, 2016年7月23日, 1メス (cl 12.6 mm, cw 13.3 mm, 後側棘を除く).

分布. 日本, フィリピンからインド洋の各域, 紅海 (酒井, 1976, *Parthenope (Aulacolambrus) diacantha* として報告). 日本では, 東京湾, 相模湾, 伊豆半島, 紀伊半島, 長崎県, 熊本県, 鹿児島県, 沖縄島, 小笠原諸島父島 (酒井, 1976, *Parthenope (Aulacolambrus) diacantha* として報告; Takeda, 1977; 丸村・小阪, 2003). 調査標本は, 日本海からの本種の初記録を示していると思われる.

生息場所. 砂底; 水深 10–75 m (酒井, 1976, *Parthenope (Aulacolambrus) diacantha* として報告; 丸村・小阪, 2003).

備考. 日本沿岸から記録されているオキナヒシガニ属 *Aulacolambrus* は, マルオキナヒシガニ *A. curvispinus* (Miers, 1879), コトゲオキナヒシガニ *A. granulatus* (Miers, 1879), サンカクヒシガニ, オキナヒシガニ *A. hoplonotus* (Adams and White, 1849) の4種を含む (酒井, 1976; 前之園, 2016). 日本海から記録されているオキナヒシガニ属は, オキナヒシガニに限られる.

Yamaguchi and Baba (1993) では, オキナヒシガニのホロタイプ (完模式標本) の画像 (乾燥標本, fig. 127) が示されているが, 甲の状態が劣化しているため, その全体の輪郭が不明瞭であると述べている. その甲の外形は, 原記載の標本図に比べて明らかに縦長で, 後側棘も著しく短い. そのため, 原記載の標本図と現状のホロタイプでは, 明らかに異なった形状を示しており, これらが同一のものであるかについて再検証する必要がある.

調査標本は, 潮間帯の砂底から得られた. 調査標本の採集地では, キンセンガニ *Matuta victor* (Fabricius, 1781) が同所的に見つかっている.



図 9. *Aulacolambrus diacanthus* (De Haan, 1837) サンカクヒシガニ, 松江市島根町加賀桂島, メス (cl 12.6 mm, cw 13.3 mm, 後側棘を除く).

Pilumnoidea ケブカガニ上科

Pilumnidae ケブカガニ科

Pilumninae ケブカガニ亜科

***Pilumnopeus makianus* (Rathbun, 1931)** マキトラノオガニ
(図 10)

調査標本. 島根県. 松江市美保関町森山, 境水道大橋近く, 潮間帯, 転石下, 2014年4月3日, 1オス (cl 10.9 mm, cw 15.3 mm).

分布. 中国, 台湾, 日本 (酒井, 1976). 日本では, 和歌山県, 瀬戸内海, 高知県, 島根県, 山口県, 長崎県, 熊本県, 鹿児島県, 沖縄島 (酒井, 1976; 和田, 1995; 山本ほか, 2005; 日本シジミ研究所, 2007; 成瀬, 2010; 鈴木ほか, 2013; 竹本, 2022).

生息場所. 内湾, 転石下・岩の割れ目・カキ殻の間隙; 潮間帯 (酒井, 1976; 鈴木ほか, 2013).

備考. 島根県では, 中海および境水道から記録されている (石飛ほか, 2000; 日本シジミ研究所, 2007). 調査標本も, 境水道沿岸 (松江市美保関町森山)の潮間帯の転石域から採集された. 本種は, 日本海沿岸では島根県および山口県のみから記録されている (日本シジミ研究所, 2007; 竹本, 2022).

なお, 三浦 (2008)が図示している「トラノオガニ」はトラノオガニダマシ *Pilumnus trispinosus* (Sakai, 1965)に, 「マキトラノオガニ」はバルストラノオガニ *Pilumnopeus granulatus* Balss, 1933 に, 「トラノオガニダマシ」はマキトラノオガニ *Pilumnopeus makianus* (Rathbun, 1931)に, 当著者によって出版後に, 非公式ながら種名が修正されている.



図 10. *Pilumnopus makianus* (Rathbun, 1931) マキトラノオガニ, 松江市美保関町森山, オス (cl 10.9 mm, cw 15.3 mm).

Thoracotremata 胸孔短尾亜区**Grapsoidea イワガニ上科****Grapsidae イワガニ科*****Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840 イワガニ**

(図 5A, 11)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 潮間帯, 転石下, 2013年8月12日, 1オス (cl 26.0 mm, cw 30.1 mm). 松江市島根町加賀桂島, 潮間帯, 転石下, 2016年7月16日, 1オス (cl 23.8 mm, cw 27.1 mm). 海士町豊田 (隠岐諸島島前中ノ島), イワジキ浜 (明屋海岸の西), 潮間帯, 転石下, 2014年7月12日, 1オス (cl 20.0 mm, cw 23.0 mm).

分布. 東太平洋: カナダ (ブリティッシュコロンビア州), アメリカ (オレゴン州からカリフォルニア州), メキシコ, チリ, ガラパゴス諸島; 西太平洋: 日本, 韓国 (酒井, 1976; Cassone and Boulding, 2006). 日本では, 北海道 (函館)から九州, 沖縄諸島 (三宅, 1983; 和田, 1995).

生息場所. 岩礁; 潮間帯, 高潮線付近 (三宅, 1983; 和田, 1995).

備考. 本種は, 東太平洋と西太平洋の離れた両沿岸から確認されている. 日本沿岸では, 1890年以前の記録がなく, アメリカ大陸沿岸域からの移入種であると考えられていた (三宅, 1983; 和田, 1995). しかしながら, Cassone and Boulding (2006)は, 北アメリカおよび韓国の標本の DNA 解析に基づき, 両沿岸の個体群は 80~120 万年前の更新世に分化したことを示し, 西太平洋の個体群は自然分布であると結論付けている.

通常, 開放的な岩礁海岸において見つかる種であるが, 河口近くや内湾・干潟の潮間帯転石域にも生息している (三浦, 2008; 本報).



図 11. *Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840 イワガニ, 松江市島根町加賀桂島, オス (cl 23.8 mm, cw 27.1 mm).

Sesarmidae ベンケイガニ科

Chiromantes haematocheir (De Haan, 1833) アカテガニ

(図 12)

調査標本. 島根県. 海士町御波 (隠岐諸島島前中ノ島), 風呂屋海岸, 潮上帯, 泥底, 2014年7月13日, 2オス (cl 27.2 mm, cw 32.0 mm; cl 27.6 mm, cw 32.7 mm).

分布. 日本, 韓国, 台湾, 中国 (Schubart and Ng, 2020). 日本では, 青森県から鹿児島県 (鈴木, 2012; Schubart and Ng, 2020).

生息場所. 干潟の後背地のヨシ原, さらに陸側の土手や山林. 河川や湿地に近い場所では内陸の高い場所にも出現 (三浦, 2008; 鈴木, 2012).

備考. 本種は, 琉球列島にも分布すると考えられていた (例えば, 酒井, 1976; 三宅, 1983)が, 当地の記録はリュウキュウアカテガニ *Chiromantes ryukyuanus* Naruse and Ng, 2008 のものであろうと考えられている (成瀬, 2012). アカテガニ属 *Chiromantes* には, アカテガニとリュウキュウアカテガニの 2 種のみが現在含まれる (Schubart and Ng, 2020).

アカテガニは, クロベンケイガニ *Orisarma dehaani* (H. Milne Edwards, 1853)およびベンケイガニ *Orisarma intermedium* (De Haan, 1835)と同所的に出現するが, これら2種より水辺から離れた場所に棲む傾向がある.



図 12. *Chiromantes haematocheir* (De Haan, 1833) アカテガニ, 海士町御波 (隠岐諸島島前中ノ島), 風呂屋海岸, オス (cl 27.6 mm, cw 32.7 mm).

***Clistocoeloma villosum* (A. Milne-Edwards, 1869) フジテガニ**
(図 13)

調査標本. 島根県. 松江市島根町加賀桂島, 遊歩道横, 潮上帯, 転石下, 2016年7月16日, 2オス (cl 15.8 mm, cw 18.7 mm; cl 16.1 mm, cw 19.1 mm), SNMH.

分布. マダガスカルからサモア諸島にかけてのインド-西太平洋の広域 (和田, 2012). 日本では, 千葉県から九州の太平洋岸, 島根県, 山口県, 琉球列島 (和田, 2012; 前之園・佐伯, 2016; 大澤ほか, 2017; 高倉・駒井, 2019; 竹本, 2022). 日本海近隣では, 朝鮮海峡の西に位置する済州島から報告されている (Lee et al., 2010).

生息場所. 内湾河口域の高潮帯. 生息基質はヨシ原内の泥底, あるいは石組み護岸などである (和田, 2012). マングローブ林の縁辺では, 落ち葉に覆われることにより, 泥底の湿度が保たれた石の下から見つかっている (Komai et al., 2004). さらに和田 (2013)は, 九州や沖縄での野外観察に基づき, フジテガニの生息環境は内湾の河口部から海岸のれき地で, 水際が緩やかな土の斜面になっているところにれきが堆積しており, さらに樹木などが張り出して日陰になるような場所であるとしている. 加えて, 和田 (2013)は, 広島県尾道市において, 流入河川の無い海岸のれき地の満潮線付近でアカイソガニ *Cyclograpsus intermedius* Ortmann, 1894 などとともに, フジテガニを採集したことから, 本種は河口域や干潟周辺に限らず, 開放的な海岸のれき地にも生息できると述べている.

大澤ほか (2017)が島根県から記録した標本は, 外海に面した小規模な湾沿いの遊歩道横において, 近隣の樹木からの落ち葉が積もり, それらに部分的に埋もれた石の下から採集された. この発見場所は, これまでの報文で記述されている本種の生息環境の範疇に合致し, 上記の和田 (2013)の指摘も支持している. 樹木からの落ち葉の堆積地や樹木などが張り出して日陰になる場所の石の下など, 湿度がある程度保たれるような潮上帯の環境が, フジテガニの生息には適していると判断される.

備考. ウモレベンケイガニ属 *Clistocoeloma* には現在 8 種が含まれており (Lee et al., 2013), そのうち日本からはウモレベンケイガニ *C. sinense* Shen, 1933 とフジテガニの 2 種のみが知られている (和田, 2012). ウモレベンケイガニは, 日本海沿岸では新潟県のみから記録されている (伊藤・本間, 2001, *C. merguense* De Man, 1888 として報告).

フジテガニは, 外敵に発見されると素早く逃げるが, ウモレベンケイガニは, 脚をたたんで動かなくなる擬死行動を示す. フジテガニもいったん外敵に捕まると, 同様な擬死行動を示す (鈴木ほか, 2013; 和田, 2013 参照). この行動は, 大澤ほか (2017)が報告した個体においても, 採集時に確認できた.

調査標本の採集地では, カクベンケイガニ *Parasesarma pictum* (De Haan, 1835)が同所的に見つかった (大澤ほか, 2017).



図 13. *Clistocoeloma villosum* (A. Milne-Edwards, 1869) フジテガニ, 松江市島根町
加賀桂島, オス (cl 16.1 mm, cw 19.1 mm).

***Nanosesarma minutum* (De Man, 1887) ヒメベンケイガニ**
(図 14)

調査標本. 島根県. 松江市島根町小具, 2011年11月2日, 1メス (cl 4.1 mm, cw 4.7 mm), SNMH. 松江市島根町加賀桂島, 2011年6月15日, 1メス (cl 4.3 mm, cw 5.0 mm), SNMH.

分布. 日本, 中国, タイ, マレーシア, シンガポール, インドネシア, インド, マダガスカル, タンザニア (三宅, 1983, *N. gordonii* (Shen, 1935)として報告; Padate et al., 2022). 日本では, 相模湾から高知県, 九州, 鳥取県, 島根県) (上田, 1963, *Sesarma* (*Sesarma*) *gordonii* Shen, 1935として報告; 三宅, 1983; 桑原, 2014c, *N. gordonii* (Shen, 1935)として報告; 山本ほか, 2006).

生息場所. 岩礁, 干潟, 岩や石の隙間, カキ殻の中; 潮間帯 (三浦, 2008; 鈴木ほか, 2013).

備考. ヒメベンケイガニは, ベンケイガニ科の中でも小型種で, 甲幅が 10 mm に満たない (三浦, 2008). 日本海沿岸における本種の記録は, 鳥取県 (日吉津村, 日野川河口; 上田, 1963), 島根県 (松江市島根町小具・加賀桂島; 桑原, 2014c), 山口県 (長門市; 竹本, 2022)に限られる. 調査標本は, 桑原 (2014c)によって記録された標本である.

日本沿岸から記録されているヒメベンケイガニ属 *Nanosesarma* は, ヒメベンケイガニ, クチキヒメベンケイガニ *N. andersonii* (De Man, 1887), ケブカベンケイガニ *N. vestitum* (Stimpson, 1858)の 3 種であり, クチキヒメベンケイガニおよびケブカベンケイガニは, 国内では琉球列島から知られている (酒井, 1976; Komai et al., 2004; 前之園, 2012).



図 14. *Nanosesarma minutum* (De Man, 1887) ヒメベンケイガニ, 松江市島根町加賀桂島, メス (cl 4.3 mm, cw 5.0 mm), エタノール液浸.